

2020.9.10 (木)
第 9 回例会
(通算 3603 回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「Together! 次世代へ共に築こうロータリー！」

第84代会長 舟木 博
副会長 土橋 賢一
幹事 荒井 剛
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2020-2021 年度
国際ロータリーテーマ



ロータリーは世界の扉を開く
2020-2021 年度
RI 会長 ホルガー・クナーク
第 2500 地区ガバナー
松田 英郎 (富良野 RC)

月間テーマ

基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間

本日のプログラム

講師例会「息を引き取る」ということの意味 (担当：プログラム委員会)

次週例会

嵯峨記念育英会 奨学生紹介 (担当：嵯峨記念育英会委員会)

- ロータリーソング：「四つのテスト」
- ソングリーダー：得地 哉君
- 会員数 99 名
- ビジター なし
- ゲスト (株)博善社 代表取締役専務 請川 透様 (釧路西クラブ会長)

会長の時間

舟木 博会長



皆さん、食事中の方はお続けください。今日は商売柄、ちょうど新米が出ていますので「季節の新米の話」ということで話をさせていただきます。

今年も大型の台風の中、1年に1度、

一番美味しい新米の季節がやってきました。日本の新米は7月の石垣島に始まり沖縄を通過して、8月には鹿児島島の種子島、お盆過ぎには宮崎、そして高知と進んでいきます。いまは関東の早場米の刈り取りが最盛期を迎えております。

昔の配給時代、新米の発売は11月を始めておりました。いまは昔に比べると3カ月ほど早く出回っております。

新米の特徴と申しますと、水分が多く、炊き上がりの香りが良く、肌がピカピカして、まるで若い娘さんのように例えております。残念ながら、1年でおばさんになってしまいますが。

こんな美味しい新米ですが、昔は流通業者や消費者から良い評価を得ていませんでした。なぜなら、『新米』にはもう1つの意味がありまして、「未熟な、半人前の人間」という意味で新人さんに対するややネガティブな意味で使われておりました。この語源は昔、古米の方が新米より価値が高かったことに由来してござい

す。

まずは、新米の持つ水分の多さが保管に向かなかったからです。「もみ」や「玄米」の水分度合いを間違えるとカビだらけになってしまいます。この状態は「水分過多」と言い、検査規格から外れてしまいます。逆に乾燥し過ぎると、お米が精米時に割れてしまいます。これは、胴体の「胴」に「割れる」、そして「米」と書いて「胴割米」と言います。これも検査から外れて「くず米」のようになってしまいます。

乾燥については、天日乾燥や自然乾燥といって、稲束を「杭(くい)掛け」、「稲架(はさ)掛け」にして行っております。杭掛けとは杭を1本立てて、それに米の稲束を重ねていくものです。稲架掛けは「田の字」にしてそのまま棒に並べていく形で、ちょっと地方によって違います。

現代では農家は自家用に食べる以外は機械乾燥で行っております。昔はお米を玄米ではなく「もみ」で保管しておりましたから、もみの容積と俵の容積で保管の場所が倍ほど必要でしたが、「もみ」のおかげで保存状態が最適でした。現在は、ほとんどが玄米で保管しております。

また、お米は、米蔵で保管することで熟成されて美味しくなりました。これは、「そうめんが土用を越すと、熟成されて美味しくなる」原理と同じと言われております。デンプン質の組織が余分な水分を枯らせて安定すると言われております。

こうなると、お米が炊飯時に炊き増えますので人々

に喜ばれておりました。新米は炊き増えしませんので、経済的ではないのであまり喜ばれなかったのです。昔の富裕層は蔵に数年分を「もみ」で保管しておりましたので、古い順番から食べていましたので、なかなか新米は食べられなかったと聞いております。

熟成の話をもう1つ、イタリアのロンバルディア州ポー川の流域は米の産地で有名ですが、かの地ではカルナローリ種というお米を数年間熟成させて販売しております。これは高級パエリアの米として非常に高価なお米です。

この地方は、日本人には古いイタリア映画の「ひまわり」のロケ地で有名で、あの有名なソフィア・ローレンが主演をしていたので、熟成された年齢の方は思い出されることと思います。

そんなわけで、ビカピカの新米ではなく、熟成された米のようにわれわれロータリアンは、まだまだ世の中に役立つ存在であるというオチで話を終えさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

■本日のプログラム■

講師例会「息を引き取る」ということの意味

公演に先立ってビデオの上映

(ビデオ上映の音声)

皆さま、こんにちは。株式会社博善社・代表取締役専務・請川透と申します。よろしくお願い申し上げます。

一度の葬儀で200万円から300万円も費用がかかっていたのは約25年前くらいでございます。確かに今でも300名～500名くらいの会葬者様が集まり、それなりのおもてなしをすると相当費用がかかりますが、現在では家族葬がはやり、会葬者様の平均の数も激減いたしました。

お葬式といえば、何百万円単位でお金がかかるイメージから「積み立て方式の会員になっておこう」という人が昔は多く見受けられましたが、現在では積み立てをするほど費用もかかりませんので、少しずつそんな人も減ることと思います。

私の考えはズバリ、リーズナブルなのに立派で、真心がこもっていて、お洒落で素敵なお葬式がこれからは当たり前になります。とおり一遍のお葬式や形式的なお葬式、礼儀だけに捕らわれてきちんとお別れできないお葬式はそろそろ止めにしたいのです。

ご家族皆様の心に寄り添ってお葬式を進めさせていただきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(ビデオ上映終了)

プログラム委員会 中島 徳政委員長

本日もよろしくお願ひします。プログラム委員長・中島です。本日は先ほどご紹介ありましたとおり、株式会社博善社・代表取締役専務・請川透様です。ロータリアンということもございまして「しっかり30分喋らせてくれ」と前もって言われておりますので、私からのご紹介はここまでにして、あとは請川さんをお願いしたいと思います。

会長、よろしくお願ひします。

株式会社博善社

代表取締役専務 請川 透 様



皆さま、こんにちは。いまご紹介いただきましたけれども、株式会社博善社、葬儀社として勤務をさせていただきます請川透と申しま

す。よろしくお願ひいたします。

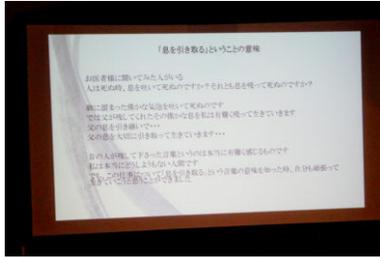
また今年度、釧路西ロータリークラブ会長として務めさせていただいております。本来であれば7月の頭ぐらいに表敬訪問で、おじゃまをさせていただけると思っていたのですが、なにせコロナの関係で延期になりましたので、まさか今日、こんな形で挨拶をさせていただけるとは思ってもみなかったです。今日はこのような機会をいただきまして、会長をはじめ会員の皆さま、本当にありがとうございます。

早速、葬儀屋さんの話をさせていただきたいと思うのですが、どうでしょうか、今日、葬儀屋が話にくるということで、もしかしたら薄気味の悪い稲川潤司さん系の話をするのではないかなど期待を持って来られている方もいるのではないかとと思うのですが。そのような話の引き出しはないわけではなく、実はありますけれども、今日は葬儀屋さんの仕事の流れ、お葬式の流れを単純にご説明させていただきたいと思ひます。

当然、人が亡くなられたら一報が入ります。葬儀屋さんの最初の仕事というところ、ご遺体の搬送業務があります。人が亡くなってお身内の関係者などから連絡が入ると寝台車でお迎えに病院へ行きます。そして自宅、いまは各会場に安置室がありますからご自宅に連れて行けないという方は安置室の方にお連れできます。

私は今年で勤続28年目になるのですが、入社して2年ぐらいてようやく上司から「そろそろお前も1人で、1本で、搬送から全部やってみろ」という指示をいただき、25年前ぐらいに忘れもしないですが、搬送業務に初めて行きました。いまの日赤病院は新しいのですが、25年前ですから古い日赤病院さんの時で、その霊安室は畳の部屋の霊安室だったのですけ

れども、小高い木で作られたベッドがあり、そこにお爺ちゃんが寝かされていて、15人くらいのご家族さんが泣いておられる所へ私が行き、ウチから持っていったストレッチャーにそのベッドから移動をしなければいけないのです。年配の婦長さんが頭の方を持ってくださって、足の方を若い細身の看護師さんが持ってくれるということで、私は初めてですからまごまごしていたら婦長さんに「葬儀屋さん、なにやっているの。早く腰を持って上げてください」と怒られました。僕はもう遺体に触れることも初めてですから、「はい、分かりました」と言って、足の方を持っている若い看護師さんの後ろに回ってその看護師さんの腰を持ってしまいました。本当にこういうことがあるのです。私にしてみれば本気で「大丈夫ですか」と、持って。そうしたら、婦長さんに「その腰じゃないでしょ」とこっぴど怒られました。先ほどまで泣いていたご家族さんも肩を揺らしてクスクス笑われて、その後のお通夜は本当にやりにくかった思い出があります。



その搬送業務が終わりましたら、ご自宅に着いて仏様を寝かせて、そして枕飾り業務です。それぞれの宗派に合わせて、お寺さんなり、神主さんなり、牧師さんなりがお参りできるようにきれいに飾り付けをします。

そして、お葬式の打ち合わせです。信仰宗派などを聞き、日程・式場・お葬式規模、家族葬でやるのか一般個人葬でやるのか、あるいは社葬でやるのかをきちんと決めていくわけです。

そしてご遺体の管理です。これはドライアイスなどを利用してご遺体保存に気を配って管理などをします。現在では本物のドライアイスも利用しますが、こういう板になっていて体に抱かせるという暖かい時期でも1週間くらいはあまり仏様の状況が変わらずに管理できる商品があります。「スーパーコールドX」という優れものをウチは5機持っていて、それでご遺体の管理を整えています。

それが終わりましたらいよいよ祭壇設営です。いただいた金額に合わせて壇を組んで、そしてお花を生けて飾っていきます。昔、地区会館やお寺さんの会場をお借りして、下から組み立てていたことが多かったのですが、最近はほとんど自前の会場で行くと最初から壇が組まれているので、仕事がだいぶ楽になったと思います。

次に納棺・湯灌の儀式的業務です。これはどうでしょうか。15年くらい前の「おくりびと」という映画を見たことがある方がいると思いますけれども、まさに

あのようなことをします。ご遺体のお身体をきれいに整えて、着物を装着させて、お顔剃りをして、女性であれば死亡化粧を施して、棺の中へ入れて安置させていただきます。

その納棺の業務が終わってやっとお通夜の儀式、葬儀の儀式ということで、式の進行、セレモニーに入っていきます。お通夜が始まる時のお寺さんのチーンという「おりん」の音を聞くと、われわれ葬儀屋さんは「ようやく無事にお通夜が始まった」と、安心するというかホッとする時でございます。

葬儀は、20年くらい前は、町内会さんが集まってお手伝いすることが慣例でした。町内会長さんが葬儀委員長をお引き受けして、挨拶で故人の経歴などを述べるのが慣例だったのですけれども、最近はホールのスタッフが略歴を紹介し、葬儀委員長の代行挨拶をさせていただく業務も増えてきておりました。

昔、町内会長さんが葬儀委員長をやった時のちょっと不謹慎な面白いことがありました。町内会長さんが葬儀委員長やり、故人の略歴を紹介します。お参りに来ていただいたお礼を述べ、故人の趣味特技などをご説明するわけです。その時に「亡くなったお爺ちゃんは、昨夜、夜中に心臓がグツときて心筋梗塞で帰らぬ人となられたわけです」とそのように挨拶をする予定だったので、「昨夜、夜中に心臓がグツときてお爺ちゃんは近親相姦で帰らぬ人となられたわけです」と。「心筋梗塞」と「近親相姦」、間違いやすいとは思いますが、ちょっと言葉を間違えると会場がざわめくわけです。言った本人は気付いていなかったみたいですが、ごめんなさい。これは会報××にしておいてください。

もうひとつ、町内会長さんが故人の趣味・特技の話になった時に、ご主人が亡くなられた喪主の奥さんがここにおいて、「ご主人は、本当に趣味が多彩な方でスポーツ観戦、パークゴルフ、そしてカラオケもたしなみ、やっぱり一番の趣味は日曜日の仕事が休みの時、庭の手入れと浮気でした」と「植木」を「浮気」と言ってしまう。その時、隣の奥さんが怒らないで「クスクス」笑っていたので強ち間違いではなかったか、とそんなこともありました。チョイチョイこんないろいろなエピソードがあります。

最後に火葬場へ行って茶毘に伏して、お骨となった体をお骨箱へ収める収骨をして、ご家族様の手元にお渡しして葬儀屋さんの仕事がだいたい終了するわけなのです。

どんな仕事でも同じこととは思いますが、仕事がスムーズに流れることはなかなかなくて、大変だなと思うこともあります。

それは特に、人の亡くなり方は様々です。ご病気で亡くなられる方が一番多いですが、例えば癌・肺炎・脳梗塞・急性心臓死・肝硬変・B型肝炎・C型肝炎、

なにか恐ろしいがイメージがありますけれども劇症肝炎、そして各感染症。いまではコロナもありますので、われわれにとっては恐ろしい感覚を持って、そして慎重にお仕事を遂行させていただかなければなりません。

また、事故で亡くられる方は当然いらっしゃるわけでありまして。交通事故・火災事故、そして釧路は漁師



町ですから水難事故、船舶死が多いですね。災害、それから自慰自殺です。

葬儀屋さんはなにが大変かという、被害者の方と加害者の方が出てしまうこのお葬式。間に入る時、一番重たい空気の中で全てのことをきちんとお葬式を組み立てて行かなければならないので、このような時には本当に慎重に一生懸命やらせていただかなければならないのです。

殺人死も当然あるわけですから。実際に私が施行させていただいたお仕事だったのですけれども、刺殺暴行事件。老人の殺人というか、娘さんによる年金欲しさの老人放置です。息をしていないことを知っていて、冬なら良かったのですが夏場にベッドに寝かせたまま2カ月間放置してしまった。翌日の葬儀の時に警察が来て、娘さんが連れて行かれてしまったこともありまして。

人には、いろいろな亡くなり方がありますが、ひとり一人にきちんと人生があり、その人生を重たく深く考えながらひとり一人を送ってあげたい、私たちはそんな気持ちで仕事をさせていただいている次第です。

少し神妙な話になってしまったので、次に福岡県にある南蔵院というお寺のお釈迦様の「涅槃(ねはん)像」です。少し説明をさせていただきます。頭を北に向け、右の肘を立て、右手で頭を支え、面(つら・顔)を西に向けて眠りにつく、左の胸をやや斜め上に上げて、胸元が圧迫されずに心地の良い姿で休まれた。仰向けになっていないので、喉がほどよく空気を吸い込める状態で、飲み物も飲みやすい状態。

言い伝えでは、お釈迦様の後ろに、沙羅双樹(さらそうじゅ)の木々が頭の方に2本~4本、足の方にも2本~4本咲いており、涅槃時(お釈迦様が亡くなられたその時)、頭の方の沙羅双樹は悲しみの色・白へと変色したと言われております。胴体から上の方ですね。そして足の方の沙羅双樹は、お釈迦様をこれからお浄土へ送るための金銀彩り鮮やかな色へと変色したと。そして白の四華は枕四華、金の四華は送り四華と言われるようになったわけですね。

涅槃像は、お釈迦様の入滅時のお姿であり、この寝相

が人間にとって一番心地の良い形であると言えます。つまり先ほど言った湯灌の儀式はお釈迦様の涅槃像を元に執り行うことで、亡くなられた本人が少しでも心地の良い形で眠りに付けるように家族が気持ちを込めて行うことが一番大切なわけです。

難しく考えることはないのです。例えば「お爺ちゃん、ゆっくり温かくして寝るのだよ」そんな言葉を子どもたちやお孫さんたちが、お爺ちゃんの膝を摩りながら声をかけているのを聞くと、そんな時は葬儀屋さんが一番「ホッ」とする時かもしれませんね。

ですから、「昨日、俺は北向きに頭を向けて寝たら変な夢を見ちゃった」と言う人がいますけれども、それは先入観ですね。「人が死んだら、北に向ける」と覚えてしまっているからです。でも、それは誤りです。北に向けて寝ることは、お釈迦様が自分の身体もって教えてくれた「一番、人にとって眠りにつきやすい寝相だ」ということです。

奈良県の法隆寺の五重塔の中にある涅槃像です。皆さん、これはちょっと形が違います。お釈迦様の後ろ側が北です。頭は西に向いていて、顔が南に向いて、足が東を向いているのです。さらに手はそっと手前の弟子に差し伸べ、徳を伝えておられる。そして回りには、沙羅双樹などがなくて、「泣き仏」といわれる像、弟子たちが描かれてお釈迦様の涅槃を悲しんで泣いている様子が感じられる像です。これはなかなか撮影できないのですが、パソコンでたまたま出て来たので、ご紹介をさせていただきました。こんな涅槃像も描かれています。

いずれにしてもお釈迦様は最後まで人々のためにお説法をくださりまして、自分の身体をもってして安らかな眠りの形を人々に教えてくださったというわけですね。

あっという間に時間が過ぎるのですけれども、最後に今日のテーマで『「息を引き取る」ということの意味』を説明させていただきたいと思っております。

お医者様に聞いてみた人がいるのだそうです。「人は死ぬ時、果たして息を吐いて死ぬのですか。それとも息を吸って死ぬのですか」と。そうしたらお医者様は「医学的に、肺に溜まった僅かな気泡を吐いて死ぬのです」と言われたそうです。「で



は、父が残してくれたその僅かな息を私はありがたく吸って生きていきます。父の息を引き継いで、父の息を大切に引き取って頑張って生きていきたいと思っております」と、言った方がいらっしゃるそうです。昔の人が残した言葉というのは、本当にありがたく感じるものですね。

私自身は、本当にどうしようもない人間なのですから、この仕事に就いて『息を引き取る』という言葉の意味を知った時、自分も頑張って生きていこうと思えることができました。先ほども申し上げましたけれども、私は25年前に博善社の創立者であります祖母を亡くしました。そして友人も数人が亡くなって、5年前には自社の恩師を立て続けに2人亡くしてしまいました。きっとこれからも自分が生きている以上、大切な人が先に亡くなったら私はその大切な息を少しでも引き取って生きていくことになると思います。そしていつかは、私自身のこの「息」を誰かに引き取ってもらって死んでいくわけです。息を引き取られるにも、息を引き取るにも、一言「ありがとうございます」と、そんな言葉が胸にいっぱいに湧いてくるわけです。

平成5年から今年で28年目の葬儀社の勤務になりますけれども、人が息を引き取るというこの言葉の意味がどれだけ深くて重いことなのか、これからもよく考えて、そしてよく学びながら葬儀屋さんの仕事・勤務をしていきたいと思っております。

先ほど、言いました稲川潤司さん系のお話も、厚かましい話ですけれども別の機会があればお話をさせていただきたいと思っております。

今日は葬儀の流れとお釈迦様の涅槃像について、そして『息を引き取ること』の意味を少しお話させていただきました。

こうして私が訪問させていただくことが、まだコロナで分かりませんが、10月、11月に「表敬訪問」という形で来させていただけるかもしれません。どうか皆さんも釧路西ロータリークラブにメイクアップなどで気軽に遊びに来ていただければ、それに勝る幸せはないとそう思う思っております。

大変とりとめのない話になりましたが、今日は長時間に亘りましてご静聴いただきまして誠にありがとうございます。

ございました。ありがとうございます。

会長謝辞 舟木 博会長

請川会長におかれましては、ご多忙の中、当クラブにご講演をいただき誠にありがとうございました。コロナ異変のために葬儀の仕様から形式まで、大きな変化に見舞われ大変な時間をお過ごしされていることと推察いたします。本当にご苦労様です。

個人的なことになりますが、私の両親と妻の葬儀で博善社様には大変お世話になりました。心温まる対応にこの場を借りてお礼申し上げます。

今日は聞いていて自分の両親、それから妻の葬儀のことを思い出しました。本当に人の人生というものは突然亡くなって、そしてまたその悲しみは5年・10年と続くものだと思っております。その時、お医者さんもそうですけれど、葬儀屋さんの対応はずっと心に残ります。

私は、社長の北谷さんをよくご存じなのですが、北谷さんとはウチのおふくろからの付き合いなのですが、もう亡くなって15年以上経ちますけれどもまだに花を持ってお参りをさせていただいています。今日、どういわけか博善社さんが来られたこと、これも縁かなと思っております。このような仕事で一生懸命活躍され、そしてまた本年度釧路西ロータリークラブの会長としてご活躍されることをご祈念しています。

今日は、誠にありがとうございました。



本日のニコニコ献金

■小野寺 俊君 10ヶ月ぶりに2度目のホールインワンをしました。

今年度累計 121,000円